令和５年度使用済製品等のリユースに関する自治体モデル実証事業

環境省

○リユース関連事業者や市民団体等と連携した先進的なリユース施策を実施しようとする地方公共団体を支援することを目的として、地域の実情に応じた創意工夫による使用済製品等の適正なリユースの推進に資する取組を広く募集し、実施に係る費用の支援及び技術的支援を行った。審査の結果、以下３件の事業を採択し、支援を行った。

地方公共団体名		事業名、実施概要
1	愛知県蒲郡市	**高齢者の力でリユース推進！粗大ごみのネット販売によるサーキュラーエコノミーモデル化事業** 市民から持ち込まれた粗大ごみを選別してリユース可能な商品として「メルカリShops」を利用して販売。地域の力を活用するため、出品作業をシルバー人材センターに委託。様々なケースで実証することで、粗大ごみを「メルカリShops」で販売する自治体モデル「がまごおりモデル」を構築した。
2	神奈川県座間市	**あなたの街の思いやりリユースプロジェクト** 地域共助プラットフォームアプリ「common」を活用し、まだ使える物品を譲りたい市民・譲り受けたい市民のマッチングを実施した。市では同アプリを介して譲り渡し方法の調整を支援するほか、物品の置き渡しを行うためのロッカーの設置（市内4か所）、市内限定での物品の無料配送を実施した。
3	東京都八王子市	**地域のデジタルプラットフォームを活用した不要品のリユース実証事業** 株式会社ジモティーと連携し、市施設にてまだ使える不要品を市民から無料で引き取り、オンラインプラットフォーム「ジモティー」に掲載し、必要とされる方に現地で販売・譲渡する事業を実施。このほか、市が回収した粗大ごみ等のうち再利用可能な品物の一部についても同様に販売・譲渡した。

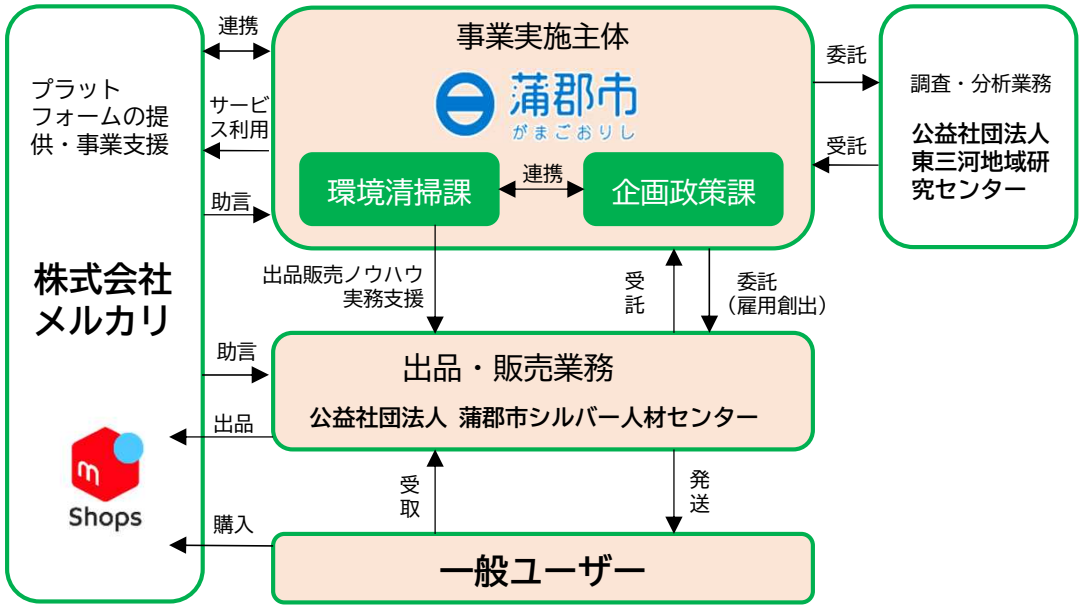
高齢者の力でリユース推進！
粗大ごみのネット販売によるサーキュラーエコノミーモデル化事業（愛知県蒲郡市）

環境省

○市民から持ち込まれた粗大ごみを選別してリユース可能な商品として「メルカリShops」を利用して販売。地域の力を活用するため、出品作業をシルバー人材センターに委託。
○様々なケースで実証することで、粗大ごみを「メルカリShops」で販売する自治体モデル「がまごおりモデル」を構築。
○今後、「がまごおりモデル」を継続しながら、情報提供を通じて他自治体に同モデルを横展開予定。

事業の全体像

下記の企業や団体と連携し、粗大ごみの販売を実施



取組の様子

選別された粗大ごみ

出品作業の様子
（商品撮影）

取組の成果

○実証実績（令和5年10月～令和5年12月）
- 出品数　：202品
- 販売数　：79品（郵送：48品、引渡し：31品）
- 販売金額：188,170円
- 販売重量（実測値）：172.6kg
- CO2削減量：133.8kg-CO2

○横展開可能な自治体モデルの構築

あなたの街の思いやりリユースプロジェクト（神奈川県座間市）

環境省

○地域共助プラットフォームアプリ「common」を活用し、まだ使える物品を譲りたい市民・譲り受けたい市民のマッチングを実施。同アプリを介して譲り渡し方法の調整を支援するほか、物品の置き渡しを行うためのロッカーの設置（市内4か所）、市内限定での物品の無料配送を実施

○当面の間、本取組を継続予定。今後１年間を目途に、利用者のニーズ等を踏まえてその後の継続方針を検討する。

事業の全体像

以下の民間企業等と連携し、物品の譲り渡し支援を実施

①東急株式会社：アプリ「common」の運用管理、置き渡しロッカーの設置支援等

②小田急電鉄株式会社：本取組の広報、他の連携団体とのコーディネーション等

③座間市リサイクル協同組合：不要となった物品（比較的大きな物品）の収集運搬

取組の様子

置き渡し用ロッカー
「common spot」

配送の様子
（粗大ごみ回収車）

取組の成果

○事業期間中に多数のマッチングが成立（令和5年10月～令和6年2月）

- 譲渡出品数：317件、マッチング件数：175件

（マッチング成立のうち①手渡し 37件、②置き渡し 128件、③配送 10件）

○受け渡し方法別の物品の傾向

①手渡し：広範なサイズの物品（例：ベッド、カレンダー等）

②置き渡し：サイズの制限（幅40cm×奥行35cm×高さ35cm）がある一方、利用率は高い（例：ヘアアイロン、バッグ等）

③市による配送：比較的大型の品物が多い（例：机、椅子等）

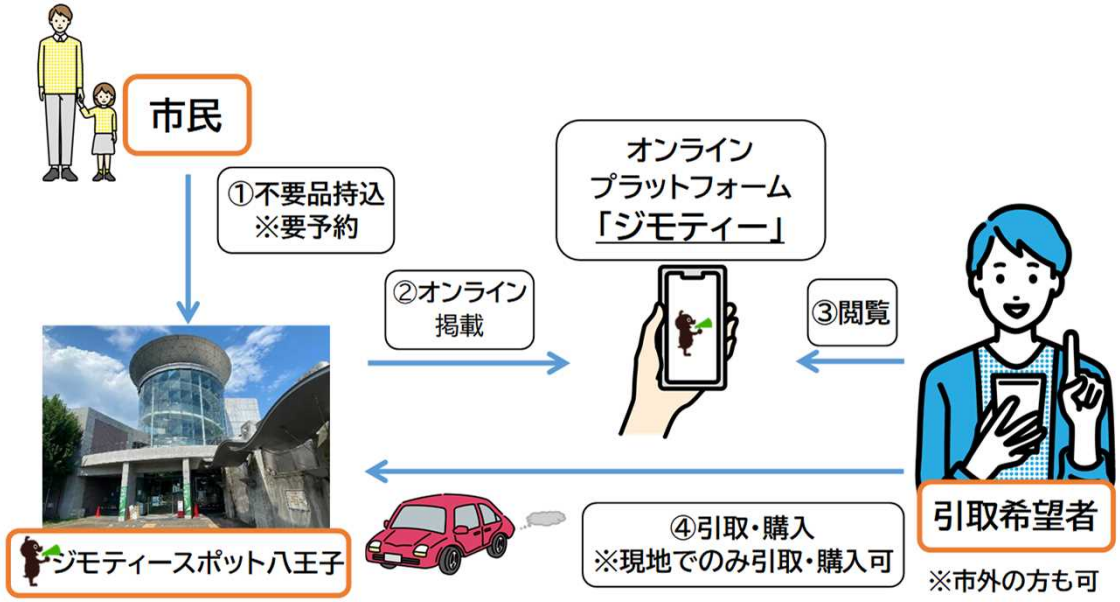
地域のデジタルプラットフォームを活用した不要品のリユース実証事業（東京都八王子市）

環境省

○株式会社ジモティーと連携し、市施設にてまだ使える不要品を市民から無料で引き取り、オンラインプラットフォーム「ジモティー」に掲載し、必要とされる方に現地で販売・譲渡する事業を実施。このほか、市が回収した粗大ごみ等のうち再利用可能な品物の一部についても同様に販売・譲渡した。
○課題である採算性の向上の改善策を検討しながら、次年度も同様の取組を継続できるよう調整中。

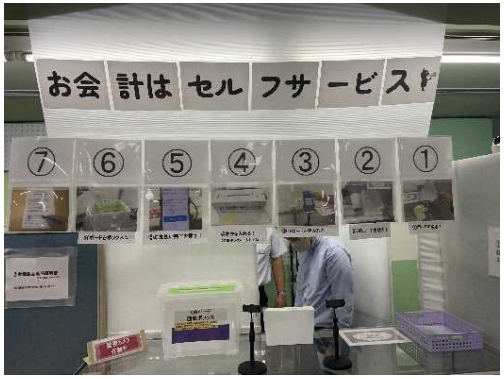
事業の全体像

①市民がまだ使える不要品を持ち込む（要事前予約）
②持ち込まれた不要品をスタッフがジモティーに掲載する
③市民がジモティーのサイトにて掲載された商品を見つける
④市民が現地で引取・購入する（先着順）



取組の様子

店内の様子



省人化の取組
（セルフレジの導入）

取組の成果

【令和5年10月～令和6年2月末】
・総出品数：7,965品　　・引渡し数：6,863品
・累計リユース率：94.5%　・リユース量：36,210kg（約36トン）
※累計リユース率は、10月～１月までに出品され、２月末までに引き渡したものから算出
○取り扱った主な品目
　家具、家電、子ども用品、楽器、スポーツ用品、アウトドア用品
○アンケート結果
・持込者の約７割がこれまでは「ごみとして廃棄」
・購入者の約６割はジモティーサイトを見て本事業を利用

令和５年度使用済衣類回収のシステム構築に関するモデル実証事業

環境省

○先進的な使用済衣類回収のシステムを構築しようとする地方公共団体、リユース関連事業者又は市民団体を支援することを目的とし、地域の実情に応じた創意工夫による再使用（リユース）・再生利用（リサイクル）・熱回収に関する取組を広く募集し、実施に係る費用の支援及び技術的支援を行った。審査の結果、以下５件の事業を採択し、支援を行った。

	実施団体名	事業名、事業概要
1	愛知県豊田市	**「衣類」の資源循環・サーキュラーエコノミー実証等** **～使用済ユニフォームや衣類の回収、再製品化を「ミライのフツー」に～** 使用済みユニフォームの再生化、地域内福祉事業所の活用（雇用や労働機会の拡充）実証事業を実施した。また、衣類回収・資源循環に関する理解促進・普及啓発のためのイベント・セミナーを実施した。
2	学校法人山内学園香蘭女子短期大学	**若年層（Ｚ世代）における使用済衣類回収・循環のシステム構築に係る実証事業** 那珂川市（福岡県）、（株）ヒューマンフォーラム、（株）メルカリ等との連携により、古着の収集・アップサイクル等を行った上で、地域のフリマ及びフリマアプリで販売することで、地域の衣類廃棄の減少を図るもの。インフルエンサーと連携し、古着の活用・販売等をZ世代に向けてデモンストレーション・周知する活動を実施した。
3	京都府京都市	**地域内での使用済衣服の回収＆循環のプラットフォーム「RELEASE⇔CATCH（リリース・キャッチ）」創出のための実証事業** リデュース・リユース・リサイクルの若者文化を醸成することを目指し、京都市内に衣服を回収する回収BOXを設置、回収した衣服のうち再利用可能な衣服を販売することで、循環の輪を広げた。使用済衣服の回収と循環を体験できるイベント「循環フェス」を開催した。
4	株式会社京葉十二社広告社	**こども服交換会・フォーマル服レンタルの会・こども服おゆずり会** 子どもの成長に応じて着られなくなってしまうこども服を持ち寄り、欲しい人がこども服の譲渡を受けたり、こども服を交換したりできるイベントを複数回実施。着る機会の少ない子ども向けフォーマル服については、レンタル可能なイベントを実施した。
5	株式会社BIG EYE COMPANY	**使用済み衣服の広域回収＆循環プロジェクト『KURU KURU Fashion Project』** 徳島県内における廃棄衣類削減を目指し、回収した古着を活用したリユースイベントの開催、リメイク商品の販売、マテリアルリサイクルを順に実施した。また県内におけるサステナブルファッションの普及啓発を目的とし、一般消費者に向けたツアーや行政向けの勉強会を併せて実施した。

「衣類」の資源循環・サーキュラーエコノミー実証等
～使用済ユニフォームや衣類の回収、再製品化を「ミライのフツー」に～（愛知県豊田市）

環境省

① 使用済みユニフォームの再生化、地域内福祉事業所の活用（雇用や労働機会の拡充）実証
② 衣類回収・資源循環に関する理解促進・普及啓発のためのイベント・セミナーの実施
　➡「衣類は、廃棄物ではなく、価値ある資源のひとつ」と考え方を変える機会の提供
〇当実証で得た知見・課題を活かし、当市の豊田市つながる社会推進実証協議会の枠組や様々なネットワークとの協働で広域での実装化に向けた検証を継続（予定）

事業の全体像

・事業者から排出されたユニフォームを市内の就労支援B型事業所が回収・分別・リサイクル工場への発送。リサイクルで再製品化。
・一般衣類をイベントで回収。衣類を原料に再製したノベルティ配布、「資源循環やリサイクル」に関するセミナーで３Rへの意識醸成を図る

【知る・体験・意識醸成】

取組の様子

事業者ユニフォームの回収の様子

SDGｓフェスタの衣服回収ブース

取組の成果

〇回収・リサイクル対象となった衣服
　事業者ユニフォーム：　684枚　363kg　参加事業者数：4社
　家庭用衣類：　1,751枚　348kg
〇普及・啓発イベント（オンラインセミナー）
　来場者／聴講者　（2,184+300+7,652）+29＝10,136人
●当該実証やイベント等に参加した人達の多くは、「衣類の循環の仕組や取組を知らない」一方「仕組があれば活用したい」と意欲は高い。ユニフォームリサイクルは、ビジネスでの有益性をPRして推進していくことが有効だが廃棄物との差別化が課題。

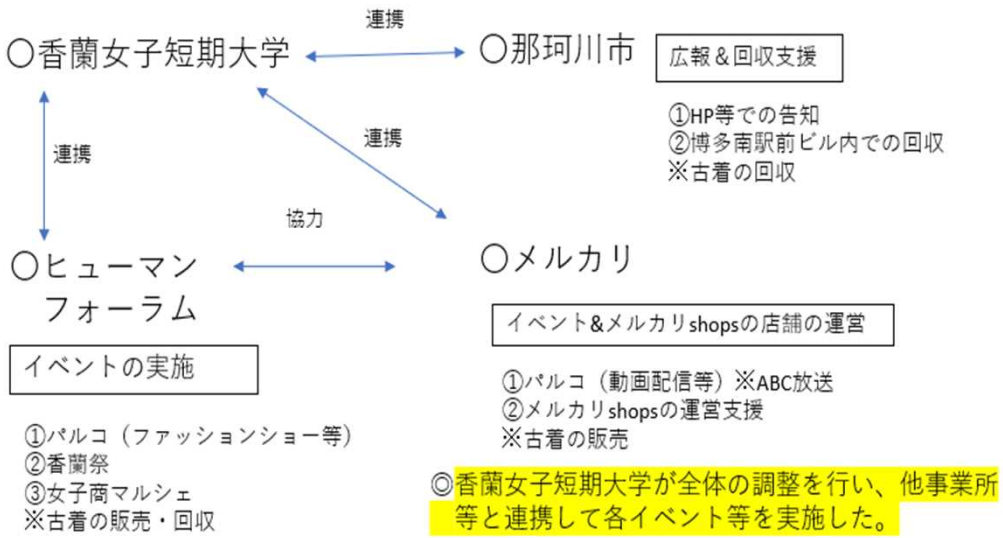
若年層（Ｚ世代）における使用済衣類回収・循環のシステム構築に係る実証事業（学校法人山内学園　香蘭女子短期大学）

環境省

○香蘭女子短期大学が、那珂川市（福岡県）、（株）ヒューマンフォーラム、（株）メルカリ等との連携により、古着の収集・アップサイクル等を行った上で、地域のフリマ及びフリマアプリで販売することで、地域の衣類廃棄の減少を図るもの。
○インフルエンサーと連携して、古着の活用・販売等をZ世代に向けてデモンストレーション・周知する活動を実施。

事業の全体像

香蘭女子短期大学が、那珂川市、ヒューマンフォーラム、メルカリと連携し、古着の回収・販売を通して、地域の衣類廃棄の減少を図る。



取組の様子

①10/7のFAショー@パルコ

②メルカリshops出品準備

取組の成果

①ごみ削減量　回収量 146.34kg
②CO2削減量　約1.1t
③60%の人が洋服の手放し方に困っている。
④古着を手放す期間は1～3年が半数。
⑤パルコでのイベントで、90%以上の人に古着の良さを伝達できた。

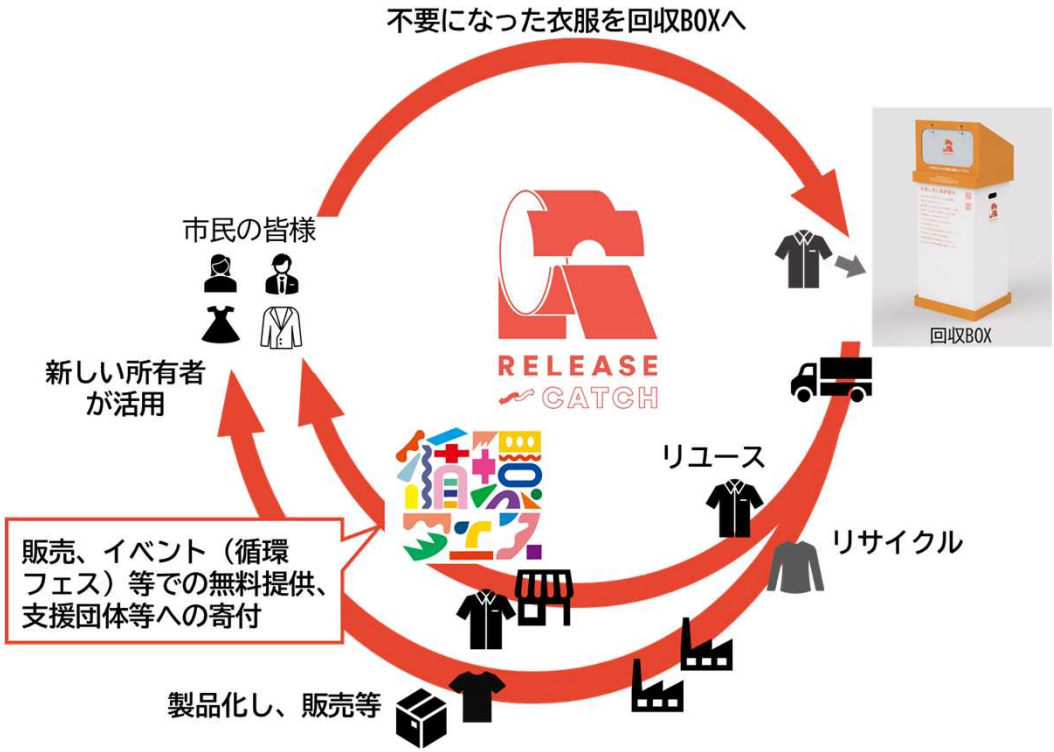
地域内での使用済衣服の回収＆循環のプラットフォーム「RELEASE⇔CATCH」創出のための実証事業（京都市）

環境省

○リデュース・リユース・リサイクルの若者文化を醸成することを目指し、京都市内に衣服を回収する回収BOXを設置、回収した衣服のうち再利用可能な衣服を販売することで、循環の輪を広げる。
○使用済衣服の回収と循環を体験できるイベント「循環フェス」を開催。
○実証終了後も連携事業者によりビジネスとして継続する。

事業の全体像

使用済衣服の回収BOXを設置、回収した衣服は仕分け後、リユース可能な衣服は値付けし販売やイベントでの無料提供を実施。



取組の様子

古着店での回収BOX設置と販売の様子
（https://release-catch.com/）

11/12「循環フェス」開催の様子
（https://junkan-fes.com/）

取組の成果

○本取組による成果　（R5.8月～R6.2月）
- 回収量：13,055kg、リユース量：2,646kg
- 取組によるCO_2削減量：288.8 t-CO_2
- 回収BOX設置数：市内常設84か所、イベント等での設置8回

○11/12（日）開催「循環フェス」を開催（参加者12,000人）
○高校、大学等への講演等による普及啓発
- 取組紹介や回収した衣服の仕分け体験を5回実施。延べ407人参加

京都市ホームページ：https://doyoukyoto2050.city.kyoto.lg.jp/projects/release-catch/

こども服交換会・フォーマル服レンタルの会・こども服おゆずり会（株式会社京葉十二社広告社）

環境省

○子どもの成長に応じて着られなくなってしまうこども服を持ち寄り、欲しい人がこども服の譲渡を受けたり、こども服を交換したりできるイベントを複数回実施。着る機会の少ない子ども向けフォーマル服については、レンタル可能なイベントを実施。
○次年度以降、江戸川区内で同様の取組の実施を希望する団体・企業があった場合の支援を実施予定。
○フォーマル服レンタル会については、引き続き運営を継続。区内外の協賛企業を募って運営の持続化につなげる予定。

事業の全体像

江戸川区と連携し、公共施設において不要となったこども服の譲渡・交換のためのイベント等を開催。（以下は交換会の実施例）

着なくなったこども服と欲しい子供服の無料交換が可能

江戸川区の公共施設にて開催

取組の様子

こども服交換会の会場の様子

取組の成果

○こども服交換会・おゆずり会（計4回）の成果は以下の通り。
- 参加世帯数：合計385世帯
- 参加者が持ち帰った衣類の数：合計4,671枚
- 各回におけるリユース率：26.2%～94.1%

※リユース率は、各回の持ち帰った衣類の数÷集まった衣類の数により算出。ただし、発生した在庫は後のイベントで活用しているため、実際にリユースされた衣服の割合は上記のリユース率よりも高い。

○フォーマル服レンタル会（2回）には合計52世帯が参加した。

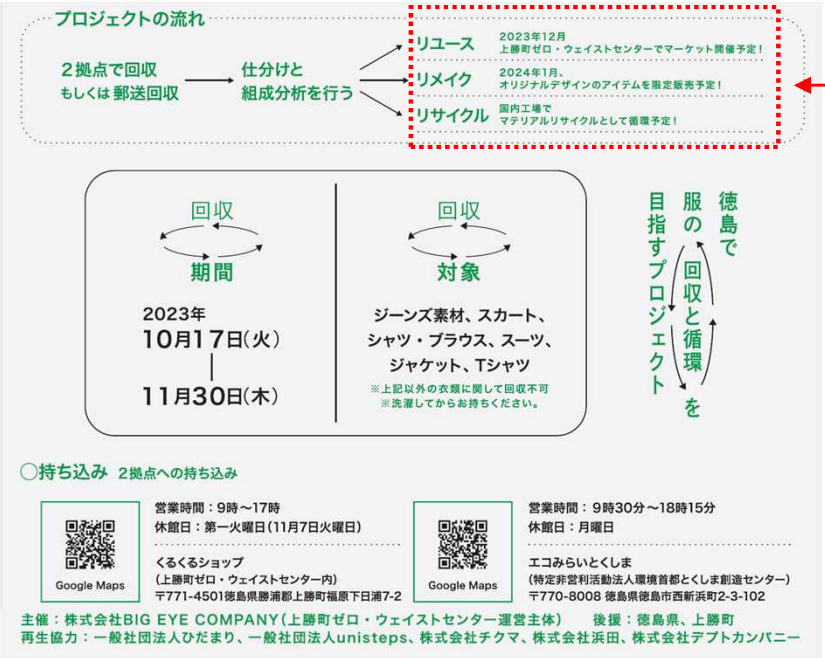
くるくるファッションプロジェクト（株式会社BIG EYE COMPANY）

環境省

○徳島県内における廃棄衣類削減を目指し、回収した古着を活用したリユースイベントの開催、リメイク商品の販売、マテリアルリサイクルを順に実施した。また県内におけるサステナブルファッションの普及啓発を目的とし、一般消費者に向けたツアーや行政向けの勉強会を併せて実施した。
○次年度以降も、年に1回のペースで県内での広域回収と企業連携による再利用・再生事業を継続予定。

事業の全体像

徳島県と上勝町より後援いただき、公共施設2拠点で対象衣類の広域回収し、回収した衣類は素材とアイテム別に仕分けを行った上で、各企業と連携しリユースイベントや勉強会の開催、商品開発、リサイクルを実施した。



【リユース】
一般社団法人unistepsにご協力をいただき12月24日にイベントとスタディツアーを開催。

【リメイク】
回収した衣類を使用したオリジナルシャツを、株式会社デプトカンパニーがデザイン監修、一般社団法人ひだまりが縫製し、2月に販売開始。

【リサイクル】
株式会社チクマと連携し北九州工場にて車の内装材に反毛化、株式会社浜田と連携し大阪工場にて綿100%衣類を再紡績し、マテリアルリサイクルを行った。

取組の様子

上勝町ゼロ・ウェイストセンターでの回収の様子

12月24日開催リユースイベントの様子

2月26日販売開始リメイクシャツ商品

車内装材にマテリアルリサイクルされる衣類

取組の成果

○広域回収量　1411.2kg　→　再生量　1007.65kg

- リユース率　36%

リユース量　510.59kg（リユース506.79kg＋リメイク6.74kg-ハギレ2.94kg）

- リサイクル率　35%

リサイクル量　497.06kg（再紡績23.6kg＋反毛508kg-ロス34.54kg）

※在庫366.07kg分の衣類については、上勝町ゼロ・ウェイストセンターで保管しており、くるくるショップで無料リユースを継続する予定。在庫分がすべて持ち帰られた場合、リユース率は62%となる見込み。